



全 国 曹 洞 宗 青 年 会

S O U S E I

vol.
210

2025
August

特集「第26期始動」

- ①新会長インタビュー
- ②新委員長座談会

ともに歩む。



特集 第26期始動「ともに歩む」

新会長

宮本昌孝インタビュー

50周年という節目を経て、さらに未来へと一歩を踏み出すこととなる第26期。「ともに歩む」をスローガンに掲げる宮本昌孝新会長にお話を伺いました。

―会長に就任されるにあたり、これまでの全曹青での活動を振り返ってみて、印象深かったことを教えてください。

第21期より延べ10年以上全曹青に出向させていただいております。それぞれの期で思い起こすことが沢山あるのですが、初出向前にも印象的な出来事がありました。平成27年に開催された「禅文化学林四国大会」に参加した際に、出向者の方から話をお聞きしたのが全曹青との出会でした。

出向にあたり、全国組織ということもあって非常に厳格な雰囲気を想像していたのですが、入ってみると皆さん優しく受け入れてくださって驚きました。また出向者の皆さんがそれぞれの特技を活かして活動されているのも印象的でした。

それから東日本大震災の被災地での活動について、「山口曹青はすごい

よね」と他県の出向者の方に声をかけられたことも強く記憶に残っています。安居を終えた直後から、地元青年会活動にはずっと参加していたのですが、それまで自分たちの活動を外から見る視点というのがそれ程ありませんでした。

師匠が早くに遷化している私にとって山口曹青は大きな心の支えになっています。先輩や同世代の方々と活動する中で多くのことを学ばせていただいていますし、悩みも喜びも共有することのできる仲間が集まっています。その山口曹青の活動が評価されているということが、とても嬉しく感じられ、全曹青での活動を続けていく活力になりました。

―これまでの全曹青での活動を経て、創立理念である「大衆教化の接点を求めて」についてどのように考えていますか。

この創立理念が軸となって全曹青ではこれまで多彩な事業を展開してきました。その流れを継承していく中で、僧侶としての基本を疎かにしないことも非常に重要だと感じています。



みやもと しょうこう
宮本 昌孝

昭和62年11月18日生まれ
山口県山口市 昌福寺住職
山口県曹洞宗青年会所属
第21期より出向
第22期事務局次長
第23期総合企画委員長
第24期事務局長
第25期副会長
第26期会長



日本社会全体としても人口減少が大きな問題になっているわけですが、青年僧侶の数も目に見えて減少しています。当然それぞれの寺院での役割があり、さらに所属曹青会でも役目をいたしながら、全曹青に出向しているという方も少なくないと思います。そうした局面にあって、大変だからといって手を抜いたりせずに、一生懸命に取り組んでいく姿勢というのが大切になってくると思います。

背筋を伸ばし、しっかりと声が届くようにお経を唱え、丁寧な物腰で人と接する。相手の置かれた状況に合わせた言葉の使い方や声の出し方を選ぶ。そういった基本を大切にしていくなかで伝わるものがあると思います。活動の内容自体を充実させることが大前提ですが、その上で、お坊さんに会えてよかった、お坊さんとお話しできて良かった、と思ってもらえることが理想ではないかと考えます。

「今期のスローガン『ともに歩む』に込めた想いはどのようなものでしょうか。」

私たちは普段、それぞれの寺院で務めを果たしている時間が圧倒的に多く、一人ひとりが責任ある大切な役目をいただいているわけですが、ともするとそれぞれの寺院にあって孤立してしまいかねない状況に置かれていると言えるのではないのでしょうか。

そうした中で、加盟曹青会であれ全曹青であれ、青年会活動を通じて出合い切磋琢磨する仲間の存在というのは非常にありがたいものであると思います。

全曹青は全国の加盟曹青会の連絡協議体として、スケールメリットを活かしながら、そうした青年僧侶同士の勝縁をさらに広げ、深めていく機会を提供していくことが求められていると考えています。

また一般の方々に対して、一方的に私たちが導くというような考え方はなく、互いに支え合うという姿勢で接していくことが望まれるのではないかと思います。これは、先代亡き後、自分が安居から戻るま



昌福寺



での間も、お寺を檀信徒の皆様を支えていただいた経験から強く感じるところです。

困っている方々には手を差し伸べ、様々な立場にある人々が手を取り合つてともに歩んでいく姿を、未来へとつなげていきたいという想いをこめて、このようなスローガンを掲げさせていただきました。

―最後に今期に向けた抱負をお願いします。

全曹青の事業を通じて集うすべての方々に、参画して良かったと思っただけできるよう、各加盟曹青会と

の連携のもと、皆様のご協力を仰ぎつつ、ひたむきに活動してまいりたいと思います。二年間何卒よろしく
お願い申し上げます。

取材／広報委員長 竹田龍永
広報副委員長 信行一宏

全曹青公式HP「般若」で宮本新会長の所信表明をご覧ください。





特集 第26期始動「ともに歩む」

新委員長座談会

新委員長プロフィール

(写真右から)

磯江 紹元

教化委員長
曹洞宗鳥取県青年会所属

竹田 龍永

広報委員長
静岡県第一宗務所青年会所属

石村 裕憲

総合企画委員長
新潟県曹洞宗青年会所属

高倉 秀哲

国際委員長
茨城県曹洞宗青年会所属

第26期では、スローガン「ともに歩む」に基づき事業を展開していくために、左記の4委員会が設置されました。

- ・総合企画委員会
- ・広報委員会
- ・教化委員会
- ・国際委員会

各委員会がそれぞれのようにスローガンを解釈し、こういった形で活動を展開させていくのか、4人の委員長が意見を交わします。

○スローガンを受けた各委員会の活動の方向性

石村総合企画委員長

総合企画委員会は、寺院や僧侶が現代社会で果たすことのできる役割を模索していきたいです。自然災害の激甚化や物価上昇、過疎地域の拡大など、昨今の社会では不安の種に事欠きません。仏教に親しみを持っていただけのような頒布物や企画によって、多くの方々に心の安らぎや、これからの生きる活力を提供することを目指します。

また従来からある「花まつりキャンペーン」や写経プロジェクトを継

続・発展させるのはもちろんのこと、さらに全曹青の頒布物の活用を促進するような僧侶向けの情報コンテンツの作成なども行うことで、全国の青年僧侶と手を携えて活動を展開していきたいと思っています。

竹田広報委員長

広報委員会の役割は各加盟曹青会や全曹青、青年僧侶各個人がどのような活動をしているのかを周知していくことだと思っています。それぞれの活動の情報を交換する媒体となることを目指します。互いを刺激し合い、自信を持って活動できる環境作りを後押ししていきたいです。

一般の方向けには、SNSやHP『般若』が中心的な広報手段となります。それぞれの特性を活用した運用を行いたいです。通常の活動告知や報告はもちろんのこと、寺院や仏教に親しみや興味を持っていたただける写真を投稿したりするなど、地域の寺院、僧侶や加盟曹青会とつながっていたり入口となるような情報発信もしていきたいです。

磯江教化委員長

教化委員会として、「スローガン」と

「ともに歩む」について考えてみると、やはり僧侶と一般の方々との距離が離れないようにすることが重要だと思います。例えば地域の中での坐禅会だと、一般の方に来てもらうというイメージが強いですが、全曹青の企画としてはこちらから参禅の場を作って近寄っていく、歩み寄っていくという感覚の方が良いのではないかと思います。50周年事業の禅喫茶「RYUREE」のように、お寺以外の身近な場を使うことでどんな方でも参加しやすくなるはずですよ。

青年僧侶に向けては、アプリで学べるコンテンツや、布教化の一助となるような動画を制作したいです。幅広い意味でともに歩み、一般の方とも手を取り合っていけるような企画を展開していきたいです。

「寺離れ」という言葉もありますが、各地区では坐禅会や精進料理教室の開催が以前よりも盛んに行われ、お坊さんのお話を聞きたいという声も様々な場面で耳にします。教化委員会としてはオンライン坐禅会や精進料理教室など、元々あるものを大切に、そのクオリティを上げて企画運営するというのが非常に重要だと感じています。そこに参加する出向者

や、青年僧侶の皆様が地元に戻ってそのノウハウを実践していただくことが、「ともに歩む」というスローガンにつながると思います。

高倉国際委員長

国際委員会では、国内外を問わず、僧伽（サンガ）としての人と人とのつながりを大事にしたいという想いを強く持っています。仏教自体が国際宗教であり、仏教という共通言語、共通の信仰をもとにつながっていることを改めて多くの人に感じていただきたいと思っています。各国の文化や価値観の違いがあることを知っていただき、そこから相互の理解を深めていけるようにしていきたいです。

具体的に委員会としてまずやりたいことは、世界仏教徒青年連盟などを通じて今までに築いてきた交流や、前期から続いている韓国曹溪宗との交流事業 Korea-Japan Zen Club での現地の皆様とのつながりをより深めていくことです。

青年僧侶や周りの人を巻き込んでいくような企画に取り組みたいです。

磯江教化委員長

今、高倉委員長がおっしゃった「人

と人とのつながりを大事に」「周りの人を巻き込んでいく」という考え方は、教化委員会の活動でも意識していきたいことです。ある老師のお話の中で、「これからはお寺の信仰ではなくて僧侶その人への信仰になっていく」という言葉がありました。布教化といっても、押し付けるのではなく寄り添いながら進めていくのが大事かと思っています。

私たち青年僧侶は、この住職さんにお経を唱えていただきたいとか、この方なら安心して任せられると思われるような人柄を目指すべきではないでしょうか。日々の積み重ねが「寺離れ」を食い止めると思います。

ありがたいことに全曹青のイベントに何度も来てくださるリピーターの方が大勢いらっしゃいます。組織としてはもちろん、一人の人間として目の前にいる方に真摯に向き合い、宗教者としての人間性を一人ひとりが高めることができるか良いと思います。

竹田広報委員長

イベントに参加してくださる方がいるということは、僧侶にとって本当に励みになると感じます。昨今、

SNS等では宗教に対して懐疑的な声を耳にすることも多い気がします。しかし実際には、多くの方が進んで足を運んでくださるような、魅力のある活動を実践している方々が私たちと同じ青年僧侶のなかにも大勢いらっしゃると思います。そういった方々の姿から学ぶことで、新たな活力が生まれると思います。

活力という点で言えば、日本とは異なった環境で展開されている海外での布教活動にも学ぶことが多そうだと感じています。

高倉国際委員長

そうですね。海外での摂心に参加させていただいたときに、海外の方は禅での学びを日常生活に取り込んでいくことへの関心がとても強いという印象を受けました。前期に「世界の寺院から」という企画でブラジルの寺院経営のお話を伺いました。日本のように檀家さんがいない中でどのようにお寺を運営していくか。その社会の中で、坐禅や曹洞宗の教えが人々の中で非常に価値あるものとされ、心の拠り所になっていることが鍵であると感じました。

そうすると、私たち僧侶自身が曹

洞宗の教えを本当に素晴らしいものであると思えるかどうかが重要になってまいります。苦しみの多い現代社会を生きる人々にとって、私たち僧侶の生き方が輝いて見えるように、僧侶一人ひとりの行動からもう一度考え直す必要があると思います。

現地の僧侶の皆様は「場を作る」ということを物凄く徹底されていて、作法はもちろんですが坐禅の導入部分から丁寧に教えておられました。どなたも受け入れながら、ともに場をつくるということが日本での坐禅会を開く上でのヒントになるかもしれません。

○各委員会の協力

石村総合企画委員長

このように話を聞いてく中で、頒布物に取り入れられる気づきも色々ありそうです。委員会同士で協力して活動していくことも「ともに歩む」につながりますね。他の委員会も多かれ少なかれそういった部分があると思いますが、総合企画委員会は他の委員会との協働が重要な事業が数多くあります。

頒布物は、どれほど良いものを作っても、そのことを広報していただかなければ皆様の手元には届きません。

写経プロジェクトは教化委員会で作られている動画コンテンツと密接な関係があります。全曹青では『般若心経』以外にも様々な経典の写経用紙を用意しています。動画を通じてそれぞれの経典により親しみを抱いていたけると、幅広い写経活動の展開につながると思います。

また『僧侶の英会話』のように国際委員会で制作していただいている頒布物もありますし、DVDを含む様々な研修用品は国際布教に対しても大きな可能性を秘めていると思います。

お互いの委員会の情報を積極的に交換して、活動に活かしていきたいですね。

磯江教化委員長

私も他の委員会の活動はとても気になるところです。広報委員会はこれまで各種のWEB媒体の運用をされてきて、特にどういった内容の投稿に反響が多いというような蓄積はあるのでしょうか？

竹田広報委員長

蓄積というほどではないかもしれませんが、例えば前期でいうと「RYUREI」などは、明らかにこれまでとは違った層の方にも情報が届いているという感触がありました。磯江委員長が最初におっしゃったように、こちらから人の集まる場所に赴くという形に大きな効果があるように思います。

高倉国際委員長

「RYUREI」のマニュアルのようなものはありますか？国際委員会としては、茶道という日本文化が組み合わさっていることで、国際布教の手段としても非常に可能性を感じています。個人的にも、地元のことを会場に開催してみたら面白いだろうと考えることがあります。

磯江教化委員長

今のところは、前期に50周年事業の一環で開催されていたときの資料を参考に、改めて教化委員会の事業として企画をしている段階です。ただやはり、教化委員会や全曹青内部だけで終わらずに、各地での開催へ広げていきたいという思いがあります。



竹田広報委員長

その点で言うと『SOUSEI』で加盟曹青会が教化委員会と協力して事業を展開する様子を準備段階から追って記事にしたりするのも面白いのではないかと思います。

石村総合企画委員長

同じ青年僧侶の視点があると伝わりやすい話もありそうですね。頒布物の広報でも実際に使っている様子を取材してもらうと効果的ではないかと思います。内容の紹介だけではなく、同じ青年僧侶が実際に利用してみた感想を知ること、自分も利用したいと思うこともきっとあるはずです。

やはり各委員会が協力することで、より多くの方を巻き込んだ活動の展開が期待できそうですね。

○今後の活動に向けた抱負

磯江教化委員長

私自身、二期目の出向ということでもまだまだ分からないことばかりですが、他の委員さんと一緒に悩みながら、葛藤しながら歩んでいけたらと思います。

高倉国際委員長

私も二期目ですが、まずは委員長である私自身から熱量を持って皆さんを巻き込んでいきたいと思っています。国際意識を刺激し、国際感覚を養う機会を作っていけるよう活動していきたいです。

竹田広報委員長

一人ひとりの方と一緒に事業を作りあげていく。その喜び、そのありがたいご縁を感じながら広報としての職務を全うしていきたいです。

石村総合企画委員長

それぞれ様々な経験を持つ委員の皆様と協力して、青年僧侶を含む社会全体の背中を後押しできるような活動を目指していきたいと思っています。

取材／広報副委員長 信行一宏

広報委員 南澤亨全

加盟曹青会 活動レポート

九州曹洞宗青年会総会

令和7年6月30日、福岡県久留米市において、令和7年度第55回九州曹洞宗青年会総会が開催されました。総会開催にあたり、九曹青霊元圭昌会長と全曹青宮本昌孝会長より、それぞれご挨拶をいただきました。霊元九曹青会長は、今期をもつての退任となり、自身の2年間の任期を振り返り、次期会長への支援を呼びかけました。宮本全曹青会長は、前期の全曹青50周年事業への参画の感謝を表明されるとともに、「九州はひとつ」とい



う九曹青のスローガンを引用し、団結の重要性をお話しされました。すべての議題は承認され、渡辺隆文九曹青新会長のもと、新執行部での運営が開始されました。

総会と併せて行われた記念講演では、「すべての子どもたちが楽しめるボディパーカッション教育講座」という演題で、九州栄養福祉大学の山田俊之教授にお越しいただきました。ご自身の教員としての経験をもとに、ボディパーカッションが単なる音楽活動ではなく、全員が主役になる上に、自己肯定感を高め、協調性を育む教育ツールであるということをご教示いただきました。

文／福岡県曹洞宗青年会
信行一宏（全曹青広報副委員長）



レポート企画

令和7年度 定期総会

令和7年5月30日、大本山總持寺三松閣大講堂で令和7年度定期総会が行われました。議事に先立ち、来賓の大本山總持寺後堂・庵潤太老師、大本山永平寺東京別院監院・番澤剛俊老師よりご挨拶と、創立50周年事業を始めとした第25期の活動についての慰労、並びに第26期へ向けた激励の言葉をいただきました。

総会での田ノ口太悟第25期会長の挨拶では、50周年という節目に、コロナ禍で

制限された人と人とのつながりを再び結び直すことを目指し活動してきた第25期の総括や、退任にあたっての御礼が述べられました。

次に宮本昌孝第26期会長より所信表明が述べられ、今期のスローガン「ともに歩む」が発表されました。第26期の始動にあたり、苦悩する人々に寄り添い、手を差し伸べる存在として、青年僧侶同士で互いに手を取り合い、僧侶だからできること、寺院だからこそできることを今一度見つめなおし、心豊かな社会の実現に向けて歩みを進めていく決意が語られました。

全国より会員が参集する中で、未来に向けて手を携え、ともに歩みを進める意思が共有されました。

文／広報委員 佐瀬悠真



田ノ口太悟第25期会長 退任挨拶



宮本昌孝第26期会長 所信表明



中央研修会

令和7年5月29日、大本山總持寺三松閣大講堂において、中央研修会が開催されました。一般社団法人「未来の住職塾」より遠藤卓也氏をお招きし、『お寺の「場づくり」〜青年会活動のこれから〜』と題してご講演いただきました。

遠藤氏は大学卒業後IT企業に勤務する傍ら、東京都内の浄土真宗の寺院で開催される音楽会の運営に携わられたのをきっかけに、人々の集まる「場」としての寺院の可能性に着目され、その後「未来の住職塾」に参加されました。現在は専任で勤務されており、様々な寺院の広報活動に参画しながら、その経験を活かした講演活動も展開されています。

講演では最初に、全国に多数ある寺院が、それぞれ一つずつ課題に取り組んでいけば社会を支える大きな力になる、という考え方を紹介されました。

続いて前半では、特に宗派の垣根を越えて僧侶が連帯する活動として、ウェブマガジンやフリーペーパー、フェス事業、フードバンク等の多種多様な事例を紹介していただきました。また、

他業種の方々との連携として、観光協会や困窮者支援を行うNPO法人との協力活動や、子ども食堂や終活支援を行う独自の社団法人を設立した事例にも言及されました。

さらに後半では、こうした様々な事例から得られる学びを踏まえ、寺院や青年僧侶のこれからの活動に大切な三つの要素として、一回限りで終わらずに人々の生活の一部となる「習慣性」、社会構造が変化する中で持続可能性を保つための「経済性」、寺院という場所を活かし地域の方々の安心の拠り所となる「社会福祉性」を挙げられました。

最後の質疑応答では、新たな挑戦が求められる中での檀務や家族生活との兼ね合いについて質問が寄せられ、目指す将来像をしっかりと定め、優先順位を立てて取り組みを取捨選択していくことをご提案いただきました。

豊富なご経験と客観的な視点に基づくお話を伺い、これからの青年会活動について思索を深める有意義な研修となりました。

文／広報委員 仙石鳳順



講師プロフィール

遠藤卓也 氏

一般社団法人「未来の住職塾」理事
立教大学卒業後、IT企業に勤務しながら、お寺の音楽会「誰そ彼」を主催。地域に根差したお寺の「場づくり」に可能性を感じ、「未来の住職塾」に2012年の立ち上げより参画。寺院運営の相談役や研修講師、広報ディレクター等の役割を担う。

韓国曹溪宗「国際禅瞑想サミット」と「Korea-Japan Zen Club」



令和7年4月、韓国の曹溪宗よりご招待をいただき、曹溪宗が主催した「国際禅瞑想サミット」に全曹青として参加いたしました。

この「国際禅瞑想サミット」は4月から10月までの長期間、坐禅や瞑想についての講義など様々な企画が韓国各地で開催されるという大規模な仏教イベントで、日本以外にもタイ、スリランカ、ネパールより合計10人程の僧侶が招待されていました。ソウルの中心地にある奉恩寺で行われた開会式はとても盛大で、屋外に奉られている大観音像の前に特設ステージが設置され、韓国全土から集まっ



た僧侶による読経や様々なゲストによる特別コンサートなどが行われ、その様子はテレビ中継もされていました。都市の中心でこれだけ大規模な仏教イベントを開催することは日本ではなかなか無いと思います。韓国における仏教の在り方の一端垣間見ることができました。他にも曹溪寺(曹溪宗の本山)や津寛寺といった寺院にも訪問させていただき視察・交流をさせていただきました。

また今回の訪韓に合わせて、これまでオンラインで行ってきた曹溪宗僧侶との交流会「Korea-Japan Zen Club」(以下、KJNC)も現地で開催することができま

した。これは私たちにとっても大きな喜びでした。交流の中心となってくださったいた弘大禅院(Just Be Temple)に訪問し、お互いに「やっと会えたね」と言って熱い握手や抱擁を交わしました。弘大禅院は僧侶自らがマンションを改装し、法要はもちろん宿泊や人々を受け入れるためのくつろぎスペースを作るなど、交流に重きを置く開かれたお寺です。KJNCでは喜びと興奮の中にも坐禅を行い、両国の仏教について様々な意見が交わされる非常に良い会となりました。

令和5年より少しずつ関係を築いてき



た曹溪宗僧侶の皆様ですが、今回の訪韓でまた良縁を深めることができたと感じております。今後も様々な良縁をいただけるよう、活動を続けていきたいと思っております。

文／副会長 神野太賢

般若
全国曹洞宗青年会
All Japan Young Monks Zen Buddhist Priest Association

全曹青公式HP『般若』にも今回の訪韓についての報告を掲載しております。写真も多数掲載していますのでぜひご覧ください。



第26期委員会総会

令和7年6月10日、曹洞宗檀信徒会館において第26期委員会総会が開催され、今期の出向者が全国各地より参集しました。

最初に宮本新会長を始めとする各役員から挨拶が述べられ、「ともに歩む」という今期のスローガンに基づき、人々に寄り添う存在となるため、全国の青年僧侶と手を携えて活動を展開していくという想いが共有されました。

続いて宮本会長より出向者へ委嘱状が授与された後、各委員会の活動説明が行われました。全国組織という性質上、普段は全員で顔を合わせるものの少ない出向者同士が互いの役割について理解を深めました。



さらに引き続き、『全曹青50年を未来にむけて、ともに歩みを！』と題して前期に50周年記念事業実行委員長を務めた森井監事を講師として研修会が開かれました。各種の記録映像を交えて全曹青50年の歩みを学ぶとともに、会則に掲げられた「会の目的」を題材に、全曹青の成り立ちや、出向者として活動に臨む際に意識すべきことを確認しました。

第26期の本格的な活動開始に際し、出向者各自の様々な想いが溢れる時間を共にすることができました。

文／広報委員長 竹田龍永



日頃より全国のご寺院様、全曹青会員諸師、各曹洞宗青年会様には多くのご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

第26期災害復興支援部では、災害が起きた際の被災地曹青会や関係団体との情報共有を密にし、災害への備えに万全を期すと共に、災害マージングリストや広報誌『SOUSEI』、全曹青各WEB媒体を通して引き続き情報発信を行います。また各曹青会で開催される慰霊法要に協力いたします。

能登半島地震や各被災地域のアフターケアを継続して行い、発災の際には災害復興支援部一丸となって支援活動に取り組んでまいります。

文／災害復興支援部事務局長 高杉春輝

災害ML登録のお願い

全曹青では災害発生時の情報共有を目的にメーリングリストを活用しています。全国規模での連絡協議体というスケールメリットを活かし、被災地の被害状況・ニーズ・支援の要望を出し合い、迅速な支援活動のお手伝いをします。ぜひ登録をお願いします。

こちらより

ご登録ください





令和7年全国日本仏教青年会 全国大会開催報告

令和7年5月20日、シエラトン都ホテル大阪で全日本仏教青年会全国大会が開催されました。黙祷から始まった今大会では、戦後80年慰霊法要と未来への祈願法要が執り行われ、戦争を知らない世代が増え、記憶の風化が懸念される現代において、平和の尊さ、命の重さ、そして恒久的な平和を希求する心を未来に伝え、二度と過ちを繰り返さないという強い決意が改めて胸に刻まれました。

大会メインとして「三鳥居鼎談〜平和を繕うより輪を創ろう」のシンポジウムでは、哲学者の出口康夫教授を進行役として、三鳥居として知られる嚴島神社、金峯山寺、四天王寺の宗教者と、ロボット工学者の石黒浩教授による、AIと宗教についてのパネルディスカッションが開催されました。様々な未来への可能性や課題を聞く中で、単なる技術と宗教の融合にとどまらず、人間の存在、意識、倫理、そして未来の社会のあり方について深く考察することができました。仏教の智慧はAIの発展に倫理的な羅針盤を



を提供し、一方でAIは仏教の教えの理解を深め、その普及を助ける可能性を秘めていると感じました。

AIが身近になる未来はすぐそこに来ています。AIは単なる道具ではなく、人類の意識と倫理の進化を促すパートナーとなり得ます。仏教の智慧と慈悲という深い精神性を活用する中で、私たちはAIと共に、真に平和で持続可能な社会を築き、僧侶として人間の尊厳を守りながら未来を創造することを考える時期が来ているのではないのでしょうか。

文／副会長 神野太賢

仏法興隆花まつり千僧法要

令和7年5月26日、奈良県東大寺の大仏殿において、全日本仏教青年会主催の「仏法興隆花まつり千僧法要」が奉修されました。全国各地から宗派の垣根を越えて数多くの青年僧侶が集いました。全曹青からも田ノ口第25期会長を始め数多くの青年僧侶が随喜させていただきました。

午前には、アシヨカピラー宝塔周辺の清掃作業を行いました。

午後からは金鐘ホールで開会式が行われ、全曹青からは教化委員会が大般若転

読作法の指導を行いました。その後各団体の随喜衆が長い列を組み、大仏殿へと向かいました。大仏殿では随喜衆が壇上に登壇し、毘盧遮那仏のまわりで各宗派の行法が入り入れられた法要が行われました。

引き続きアシヨカピラー宝塔前では南都二六会会長を導師として法要が勤められ、田ノ口会会長を始め各加盟団体の代表が誕生仏へ甘茶を灌ぎ、焼香を行って、仏法興隆と世界平和を祈念しました。

文／第25期広報委員 補陀孝亮



北海道管区理事 **五十嵐 大介**

曹洞宗北海道第二宗務所青年会

今年度より北海道管区理事を務めさせていただくこととなりました、曹洞宗北海道第二宗務所青年会の五十嵐大介と申します。第26期のスローガン「ともに歩む」のもと、北海道曹洞宗青年会との橋渡しとなれるよう微力ながら尽力してまいります。2年間よろしくお願ひ申し上げます。

東北管区理事 **吉岡 統親**

曹洞宗福島県青年会

今年度より東北管区理事のお役を務めさせていただきます、曹洞宗福島県青年会の吉岡統親と申します。東北管区は本年が50周年となる年でありますので、これまでの歩みを顕彰し管内各県のつながりを大切に考えていきたいと存じます。また、全曹青各位におかれましては新会長体制のもとでの更なる躍進を期待し、お祈り申し上げます。理事として微力ながらも精一杯務めてまいりますので何卒よろしくお願ひいたします。

関東管区理事 **村上 崇則**

茨城県曹洞宗青年会

昨年度より関東管区理事を務めさせていただいております、茨城県曹洞宗青年会の村上崇則と申します。昨年、全曹青50周年という大きな節目の年を迎えられ、その数多くの行事に参加できましたこと、心より感謝申し上げます。新たに第26期スローガン「ともに歩む」のもと宮本会長を中心に全曹青がさらなる飛躍を遂げますよう、関東管区加盟諸団体の皆様とともに、精進してまいります。残り1年の任期となりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

北信越管区理事 **久保 尚之**

新潟県曹洞宗青年会

このたび北信越管区理事を務めさせていただくことになりました、新潟県曹洞宗青年会の久保尚之と申します。

第25期の50周年記念事業も無事円成し、新たに宮本昌孝会長を中心とした第26期全曹青が益々発展していけるよう、教化、国際、総合企画の各委員会経験のもとに微力ながら精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

東海管区理事 **片岡 璋純**

静岡県第四宗務所青年会

昨年度より東海管区理事を務めさせていただいております、静岡県第四宗務所青年会・照自会の片岡璋純と申します。第26期スローガン「ともに歩む」のもと、宮本会長を始めとする全曹青の皆様と東海曹青との架け橋になれるよう残りの任期を微力ながら全うする所存であります。どうぞよろしくお願ひいたします。

近畿管区理事 **福井 昌宗**

兵庫県第二宗務所青年会

昨年度より近畿管区理事を務めさせていただいております、兵庫県第二宗務所青年会の福井昌宗と申します。昨年は一年を通して、たいへん有意義な経験をさせていただきました。残り一年となりましたが、第26期の皆様と協力し合いながら精進してまいります。よろしくお願ひいたします。

中国管区理事 **井田 昭彦**

石見曹洞宗青年会

このたび中国管区理事を拝命いたしました、石見曹洞宗青年会の井田昭彦と申します。第26期全曹青会長の宮本昌孝師の地元管区として、できることを精一杯に努めていく所存です。全曹青の魅力的な取り組みを、管区内青年会員一人ひとりへ丁寧に届け、会員みなで、ともに歩んでいけるよう頑張りたいと思います。

四国管区理事 **大隆 光真**

四国地区曹洞宗青年会

このたび四国管区理事を務めさせていただきます四国地区曹洞宗青年会の大隆光真と申します。日々の生活において、人との出逢い、コミュニケーションの大切さ、人に寄り添い「ともに歩む」ことができる僧侶となるよう、全曹青の活動を通して多くの事を学ばせていただきたいと思います。そして、微力ながら精一杯尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

九州管区理事 **渡辺 隆文**

熊本県曹洞宗青年会

このたび九州管区理事を拝命いたしました、熊本県曹洞宗青年会に所属しております渡辺隆文と申します。全曹青50周年を終え100周年への道が始まる新たな一歩の年となります。宮本会長の掲げるスローガンのもと、役員の皆様とともに青年僧侶らしく今私たちにできること、やるべきことを見極め、微力ながらお力添えをできればと思います。2年間どうぞよろしくお願ひいたします。

令和7年度 全国曹洞宗青年会
一般会計歳入歳出予算

期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日

歳入総額 35,900,000 円
歳出総額 35,900,000 円

差引残額 0 円

令和6年度 全国曹洞宗青年会
一般会計歳入歳出決算 報告

期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額 34,235,293 円
歳出総額 32,148,775 円

差引残額 2,086,518 円

【歳入の部】

款	項	目	令和6年度予算額	令和7年度予算額	比較増減	備 考
1. 基本運営収入			3,704,208	4,373,518	669,310	
	1. 会費収入		2,383,000	2,287,000	△ 96,000	
		1. 同上	2,383,000	2,287,000	△ 96,000	
	2. 繰越金		1,321,208	2,086,518	765,310	
		1. 前年度繰越金	1,321,208	2,086,518	765,310	
2. 事業費収入			30,195,792	24,346,482	△ 5,849,310	
	1. 賛助費収入		6,000,000	6,000,000	0	
		1. 同上	6,000,000	6,000,000	0	
	2. 助成金		13,300,000	11,800,000	△ 1,500,000	
		1. 事業助成費	13,300,000	11,500,000	△ 1,500,000	曹洞宗事務局より
		2. 協賛金	300,000	300,000	0	広報誌広告協賛金
	3. 事業収入		10,890,000	6,540,000	△ 4,350,000	
		1. 同上	10,890,000	6,540,000	△ 4,350,000	R6年度ZEN CUSHION 頒布収入 542,7万円生含む
	4. 雑収入		0	0	0	
		1. 委員会運営費繰戻金	0	0	0	
	5. 雑収入		5,792	6,482	690	
		1. 同上	5,792	6,482	690	預金利息
合 計			33,900,000	28,720,000	△ 5,180,000	

【歳出の部】

款	項	目	令和6年度予算額	令和7年度予算額	比較増減	備 考
1. 基本運営費			10,320,000	9,400,000	△ 920,000	
	1. 会議費		1,400,000	800,000	△ 600,000	
		1. 役員会	600,000	400,000	△ 200,000	R6 第5回 執行部会議 令和7年度臨時総会開催
		2. 総会	800,000	400,000	△ 400,000	年2回 評議員会 総会(大本山總持寺)
	2. 執行交通費		7,800,000	7,600,000	△ 200,000	
		1. 役員会	3,800,000	4,000,000	200,000	R6 第5回 執行部会議 令和7年度臨時総会開催
		2. 評議員	2,300,000	2,000,000	△ 300,000	年2回 定時臨時評議員会(大本山總持寺)
		3. 渉外交通費	1,700,000	1,600,000	△ 100,000	全日仏青 管区大会
	3. 全日仏青関連費		250,000	250,000	0	
		1. 負担金	250,000	250,000	0	全日仏青加盟負担金
	4. 事務費		780,000	670,000	△ 110,000	
		1. 通信費	350,000	200,000	△ 150,000	郵送料 振込手数料等
		2. 慶弔費	300,000	240,000	△ 60,000	祝賀、弔儀、法要等
		3. 消耗品費	100,000	200,000	100,000	封筒、名札、名刺等
		4. 備品費	30,000	30,000	0	
	5. 雑費		60,000	50,000	△ 10,000	
		1. 同上	60,000	50,000	△ 10,000	
	6. 予備費		30,000	30,000	0	
		1. 同上	30,000	30,000	0	
2. 事業費			23,580,000	19,320,000	△ 4,260,000	
	1. 委員会運営費		6,000,000	5,000,000	△ 1,000,000	
		1. 総合企画委員会	1,500,000	1,200,000	△ 300,000	企画運営・頒布事業等
		2. 広報委員会	2,000,000	1,600,000	△ 400,000	広報活動等
		3. 教化委員会	1,400,000	1,200,000	△ 200,000	教化事業・精進料理教室等
		4. 国際委員会	1,100,000	1,000,000	△ 100,000	国際事業等
	2. 事業費		5,600,000	4,520,000	△ 1,080,000	
		1. 本部事業費	4,300,000	3,260,000	△ 1,040,000	本部企画運営・頒布事業等
		2. 研修会開催費	0	260,000	260,000	評議員会にあわせて2回開催予定
		3. 国際活動事業費	300,000	300,000	0	
		4. 神文化学林関係費	1,000,000	700,000	△ 300,000	
	3. 広報費		8,500,000	8,700,000	200,000	
		1. 編集費	1,200,000	1,200,000	0	広報誌編集費
		2. 印刷費	1,500,000	1,700,000	200,000	広報誌印刷費
		3. 発送費	5,100,000	5,100,000	0	広報誌郵送料
		4. 封筒制作費	700,000	700,000	0	OPP封筒作成費
	4. 助成金		500,000	400,000	△ 100,000	
		1. 管区大会助成金	500,000	400,000	△ 100,000	4管区開催(東北・東海・中国・九州)
	5. 積立金		2,900,000	650,000	△ 2,250,000	
		1. 周年事業基金	0	100,000	100,000	
		2. 次期執行部準備金	100,000	50,000	△ 50,000	
		3. その他	2,800,000	500,000	△ 2,300,000	R6年度ZEN CUSHION 制作経費ほか 5,200,000円(前年度2,200,000円)
	6. 雑費		60,000	30,000	△ 30,000	
		1. 同上	60,000	30,000	△ 30,000	源泉所得税
	7. 予備費		20,000	20,000	0	
		1. 同上	20,000	20,000	0	
合 計			33,900,000	28,720,000	△ 5,180,000	

※尚、各項目間の流用を認めるものとする。

【基金】ボランティア基金 11,226,188 円
周年事業基金 3,247,112 円
次期執行部準備金 717,997 円
全国曹洞宗青年会 会長 宮本 昌孝
会計 神野 元秀

【歳入の部】

款	項	目	令和6年度予算額	令和6年度決算額	比較増減	備 考
1. 基本運営収入			3,704,208	3,608,208	△ 96,000	
	1. 会費収入		2,383,000	2,287,000	△ 96,000	
		1. 同上	2,383,000	2,287,000	△ 96,000	
	2. 繰越金		1,321,208	1,321,208	0	
		1. 前年度繰越金	1,321,208	1,321,208	0	
2. 事業収入			30,195,792	30,627,085	431,293	
	1. 賛助費収入		6,000,000	5,859,065	△ 140,935	
		1. 同上	6,000,000	5,859,065	△ 140,935	
	2. 助成金		13,300,000	13,200,000	△ 100,000	
		1. 事業助成費	13,000,000	13,000,000	0	曹洞宗事務局より
		2. 協賛金	300,000	200,000	△ 100,000	広報誌広告協賛金
	3. 事業収入		10,890,000	11,028,638	138,638	
		1. 同上	10,890,000	11,028,638	138,638	曹洞宗事務局より R6年度ZEN CUSHION 頒布収入 542,7万円生含む 5,200,000円(前年度2,200,000円)
	4. 雑収入		0	531,953	531,953	
		1. 委員会運営費繰戻金	0	531,953	531,953	
	5. 雑収入		5,792	7,429	1,637	
		1. 同上	5,792	7,429	1,637	預金利息等
合 計			33,900,000	34,235,293	335,293	

【歳出の部】

款	項	目	令和6年度予算額	令和6年度決算額	比較増減	備 考
1. 基本運営費			10,320,000	8,912,171	△ 1,407,829	
	1. 会議費		1,400,000	1,260,399	△ 139,601	
		1. 役員会	600,000	501,849	△ 98,151	年5回 執行部会・理事会
		2. 総会	800,000	758,550	△ 41,450	年2回 評議員会 総会
	2. 執行交通費		7,800,000	6,851,000	△ 949,000	
		1. 役員会	3,800,000	3,385,000	△ 415,000	年5回 執行部会・理事会
		2. 評議員	2,300,000	1,993,000	△ 307,000	年2回 定時臨時評議員会
		3. 渉外交通費	1,700,000	1,473,000	△ 227,000	全日仏青管区大会・両大本山拝堂等
	3. 全日仏青関連費		250,000	250,000	0	
		1. 負担金	250,000	250,000	0	全日仏青加盟負担金
	4. 事務費		780,000	550,772	△ 229,228	
		1. 通信費	350,000	289,688	△ 60,312	郵送料 振込手数料等
		2. 慶弔費	300,000	234,746	△ 65,254	祝賀、弔儀、法要等
		3. 消耗品費	100,000	26,338	△ 73,662	封筒、名札、ケース等
		4. 備品費	30,000	0	△ 30,000	
	5. 雑費		60,000	0	△ 60,000	
		1. 同上	60,000	0	△ 60,000	
	6. 予備費		30,000	0	△ 30,000	
		1. 同上	30,000	0	△ 30,000	
2. 事業費			23,580,000	23,236,604	△ 343,396	
	1. 委員会運営費		6,000,000	6,000,000	0	
		総合企画委員会	1,500,000	1,500,000	0	企画運営・頒布事業等
		広報委員会	2,000,000	2,000,000	0	広報活動等
		教化委員会	1,400,000	1,400,000	0	教化事業・精進料理教室等
		国際委員会	1,100,000	1,100,000	0	国際事業等
	2. 事業費		5,600,000	6,154,326	554,326	
		1. 本部事業費	4,300,000	4,854,326	554,326	本部企画運営・頒布事業等
		2. 研修会開催費	0	0	0	
		3. 国際活動事業費	300,000	300,000	0	
		4. 神文化学林関係費	0	0	0	
		1,000,000	1,000,000	0	50周年記念事業特別会計に繰出	
	3. 広報費		8,500,000	7,651,648	△ 848,352	
		1. 編集費	1,200,000	1,100,000	△ 100,000	広報誌編集費
		2. 印刷費	1,500,000	1,451,279	△ 48,721	広報誌印刷費
		3. 発送費	5,100,000	4,455,219	△ 644,781	広報誌郵送料
		4. 封筒制作費	700,000	645,150	△ 54,850	OPP封筒作成費
	4. 助成金		500,000	500,000	0	
		1. 管区大会助成金	500,000	500,000	0	5管区開催(北海道・東北・東海・中国・九州)
	5. 積立金		2,900,000	2,900,000	0	
		1. 周年事業基金	0	0	0	
		2. 次期執行部準備金	100,000	100,000	0	
		3. その他	2,800,000	2,800,000	0	ボランティア基金に50万円、 頒布費特別会計に300万円
	6. 雑費		60,000	30,630	△ 29,370	
		1. 同上	60,000	30,630	△ 29,370	源泉所得税
	7. 予備費		20,000	0	△ 20,000	
		1. 同上	20,000	0	△ 20,000	
合 計			33,900,000	32,148,775	△ 1,751,225	

【基金】ボランティア基金 11,226,188 円
周年事業基金 3,247,112 円
次期執行部準備金 717,997 円
全国曹洞宗青年会 会長 田ノ口 恒
会計 関地 隆道

創立50周年記念事業 特別会計歳入歳出決算報告

期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額 21,998,103 円

歳出総額 18,750,991 円

差引残額 3,247,112 円

【歳入の部】

△印は減（単位：円）

項	目	予算額(2年間)	補正予算額(2年間) R5.9月理事会承認	決算額	比較増減	備 考
1. 繰入金		8,600,000	8,600,000	8,600,000	0	
	1. 繰入金	8,600,000	8,600,000	8,600,000	0	一般会計・周年事業基金より
2. 助成金		6,000,000	6,000,000	6,000,000	0	
	1. 事業助成金	6,000,000	6,000,000	6,000,000	0	曹洞宗精進より
3. 事業収入		1,850,000	2,510,000	4,723,685	2,213,685	
	1. 研修事業	1,350,000	1,350,000	1,328,600	△ 21,400	参加費、災害研修会への経費・添乗等（北信越参加費なし）
	2. 教化・交流事業	100,000	100,000	139,500	39,500	参加費、禅のつどいへの祝賀・添乗等
	3. 協賛金	400,000	1,060,000	3,255,585	2,195,585	周年記念事業への祝賀・添乗、記念誌広告協賛34社（予算補正）等
4. その他		500,000	500,000	2,674,418	2,174,418	
	1. 諸収入	495,000	495,000	2,674,394	2,179,394	式典祝賀・添乗、周年記念事業への賛助金等
	2. 雑収入	5,000	5,000	24	△ 4,976	預金利息等
合 計		16,950,000	17,610,000	21,998,103	4,388,103	

【歳出の部】

△印は減（単位：円）

項	目	予算額(2年間)	補正予算額(2年間) R5.9月理事会承認	決算額	比較増減	備 考
1. 両大本山拝啓事業		3,000,000	3,000,000	2,862,304	△ 137,696	
	1. 事業費	3,000,000	3,000,000	2,862,304	△ 137,696	両大本山献香料、拝請、WFBY アテンド費等
2. 研修事業		3,040,000	3,040,000	3,309,230	269,230	
	1. 事業費	200,000	200,000	813,005	613,005	資料作成、食料費、備品等 （北信越時の炊き出しボランティア経費含む）
	2. 会場費	270,000	270,000	270,000	0	3万円 ×9 管区
	3. 講師謝礼	540,000	540,000	485,496	△ 54,504	3万円 ×2 名 ×9 管区
	4. 交通費	2,030,000	2,030,000	1,740,729	△ 289,271	講師・委員 ×9 管区
3. 教化・交流事業		1,400,000	1,400,000	1,389,073	△ 10,927	
	1. 事業費	700,000	700,000	702,975	2,975	資料作成、備品等
	2. 会場費	200,000	200,000	153,610	△ 46,390	
	3. 交通費	500,000	500,000	532,488	32,488	全曹青・加盟曹青会、女性スタッフ等
4. 記念誌事業		3,500,000	4,160,000	4,833,132	673,132	※広告協賛を集めることにしたため予算補正
	1. 編集費	1,200,000	800,000	968,440	168,440	編集デザイン費
	2. 印刷費	1,100,000	1,960,000	3,351,186	1,391,186	13,600 部印刷費
	3. 取付費	1,200,000	1,400,000	513,506	△ 886,494	取材・交通費等
5. 記念式典事業		3,000,000	3,000,000	3,341,545	341,545	
	1. 事業費	3,000,000	3,000,000	3,341,545	341,545	会場費、講演料等
6. 委員会活動費		2,200,000	2,200,000	2,163,185	△ 36,815	
	1. 委員会費	2,200,000	2,200,000	2,163,185	△ 36,815	交通費、各リハーサル等
7. 広告費		600,000	600,000	660,578	60,578	
	1. 編集費	300,000	300,000	288,025	△ 11,975	ロゴマークデザイン、チラシデザイン等
	2. 印刷費	300,000	300,000	372,553	72,553	チラシ等
8. その他		210,000	210,000	191,944	△ 18,056	
	1. 予備費	210,000	210,000	191,944	△ 18,056	SNS 広告費、メールフォーム使用料等
合 計		16,950,000	17,610,000	18,750,991	1,140,991	

※残額 3,247,112 円は周年事業基金へ繰り入れる

令和6年度 全国曹洞宗青年会 次期執行部準備金 報告

令和6年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額 876,402 円

歳出総額 158,405 円

差引残額 717,997 円

<歳入の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	776,402	令和5年度より
本年度積立金	100,000	一般会計より
合 計	876,402	

<歳出の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
会議費/交通費	158,405	交通費等
合 計	158,405	

令和6年度 全国曹洞宗青年会 周年事業基金 報告

令和6年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額 3,247,112 円

歳出総額 0 円

差引残額 3,247,112 円

<歳入の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
繰戻金	3,247,112	創立50周年記念事業特別会計より繰戻
合 計	3,247,112	

<歳出の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
事業費	0	
合 計	0	

全国曹洞宗青年会 ZEN CUSHION 製作特別会計決算報告

期間 令和5年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額 7,824,401 円
歳出総額 7,694,258 円
差引残額 130,143 円

令和6年度 全国曹洞宗青年会 ボランティア基金 報告

令和6年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額 16,394,885 円
歳出総額 5,168,697 円
差引残額 11,226,188 円

【歳入の部】 (単位:円)

項 目	金 額	決 算	比較増減	備 考
令和4年度繰越金	3,024,401	3,024,401	0	令和4年度頒布物特別会計より
令和5年度積立金	1,500,000	2,500,000	1,000,000	令和5年度一般会計より
令和6年度積立金	3,300,000	2,300,000	△1,000,000	令和6年度一般会計より
合 計	7,824,401	7,824,401	0	

【歳出の部】 (単位:円)

項 目	予 算	決 算	比較増減	備 考
初期ロット製作費	2,675,200	2,675,200	0	株式会社モンベル(カバーのみ)
再製作費	4,752,000	4,752,000	0	株式会社モンベル(カバー・寝袋)
梱包作業費	349,201	265,813	△83,388	運送費・段ボール購入費など
予備費	48,000	1,245	△46,755	
合 計	7,824,401	7,694,258	△130,143	

残額130,143円を一般会計に入ります。

<歳入の部> (単位:円)

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	14,728,834	令和5年度より
本年度支援金	981,051	
納経料	185,000	
積立金	500,000	一般会計より
合 計	16,394,885	

<歳出の部> (単位:円)

項 目	金 額	備 考
活動費	3,413,084	交通費など
能登半島地震	1,737,006	下記参照
東日本大震災慰霊復興祈願法要	1,231,580	下記参照
災害研修会	329,504	
その他活動費	114,994	交通費
活動経費	1,755,613	
災害見舞金	1,250,000	【災害見舞金】5件 【活動支援金】12件
助成金・会費	250,000	JVOAD、チャイルドラインふくしま、観世ふぉん電話相談員会
事務費	18,748	郵送料、手数料
事務費	236,865	支援物資・ストックヤード補充分など
合 計	5,168,697	

<東日本大震災慰霊復興法要 歳出内訳> (単位:円)

項 目	金 額	備 考
活動費	543,830	交通費
香資	80,000	4か寺
献花	50,000	
その他活動費	557,750	供物、会場設営費、オンライン機材・人件費など
合 計	1,231,580	

<能登半島地震関連 歳出内訳> (単位:円)

項 目	金 額	備 考
活動費	1,378,838	交通費
その他事業費	358,168	行茶ラシ、支援物資、行茶用品
合 計	1,737,006	

お寺専門 結婚相談所



あいおい結びの会

曹洞宗報 1月号掲載

▼ライン ▼HP

070-3833-0800

東京都中央区銀座
1-12-4
N&E BLD.7階



株式会社
美濃角

曹洞宗専門 御法衣・御佛具

SINCE 1896



オンラインショップ『おてらのくらしー美の角商店』にて日用品を販売しております。

〒600-8475 京都市下京区油小路通綾小路下る風早町564セノータF号
TEL: 075-351-3406 ☎: 0120-66-3406 FAX: 075-351-3493

賛助費浄納芳名簿

2025年4月1日～2025年6月30日取扱い分

◆東京都

3 俊朝寺 様
6 光寶寺 様
105 鳳林寺 様
151 静勝寺 様
180 正覺寺 様
240 東雲寺 様

◆神奈川県1

272 珠泉院 様

◆神奈川県2

14 傳心寺 様
21 東照寺 様
141 龍像寺 様
390 善光寺 様
395 倫勝寺 様

◆埼玉県1

166 全龍寺 様

◆埼玉県2

232 福昌寺 様
254 見光寺 様
266 法光寺 様
368 東昌寺 様

◆群馬県

99 龍傳寺 様
209 妙英寺 様
285 桃林寺 様

◆栃木県

1 成高寺 様
14 龍昌寺 様
149 無量寺 様
175 本光寺 様

◆茨城県

39 常安寺 様
50 鏡徳寺 様
134 大統寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
22 廣壽寺 様
25 萬福寺 様
29 慶林寺 様
93 芳泰寺 様
185 勢國寺 様
243 最勝福寺 様

◆山梨県

265 宝鏡寺 様
339 南明寺 様
392 慈照寺 様
555 自元寺 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
126 一乗寺 様
127 楞嚴院 様
138 龍興寺 様
464 正泉寺 様
501 養徳寺 様
528 盤石寺 様

◆静岡県2

228 耕月寺 様
337 龍測院 様

◆静岡県3

989 観音寺 様
1208 法雲寺 様
1225 光明寺 様
1228 栄林寺 様
1314 西光寺 様

◆静岡県4

1061 保福寺 様
1105 仙林寺 様

◆愛知県1

135 光明寺 様
144 白毫寺 様
162 妙測寺 様
173 神藏寺 様
313 長松寺 様
375 春江院 様
605 天徳寺 様
635 永澤寺 様
1256 大泉寺 様

◆愛知県3

411 福田寺 様
431 報恩寺 様

◆岐阜県

5 悟春院 様
15 東林寺 様
148 圓頂寺 様
189 久昌寺 様
190 長久寺 様

◆三重県1

9 長禪寺 様
25 福壽院 様
83 涼泉寺 様
136 長昌寺 様
144 福源寺 様
276 地藏院 様
285 玉泉寺 様
316 劔光寺 様
364 観音寺 様

◆三重県2

408 東正寺 様

◆滋賀県

143 永壽院 様

◆京都府

91 福泉寺 様
154 曹源寺 様
160 宝勝寺 様
166 龍澤寺 様
172 龍森寺 様
176 玉應寺 様
177 真福寺 様
181 徳林寺 様
185 徳壽寺 様
236 善光寺 様
367 福昌寺 様
374 等樂寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

5 臨南寺 様
26 天徳寺 様
67 栄松寺 様
98 吉祥院 様

◆兵庫県1

341 常巖寺 様

◆兵庫県2

117 法円寺 様

◆岡山県

1 円通寺 様
3 長川寺 様
29 大通寺 様

◆広島県

7 伝福寺 様
22 光禪寺 様
33 勝運寺 様
46 雙照院 様
48 真観寺 様
67 西福寺 様
95 泉龍寺 様
106 信光寺 様
143 常林寺 様
177 功德寺 様
181 東明寺 様

◆山口県

54 昌福寺 様
125 龍泉寺 様
145 久屋寺 様
236 飯倉寺 様

◆鳥取県

27 景福寺 様
133 妙元寺 様
170 大安寺 様

◆島根県2

36 舜叟寺 様
70 完全寺 様
104 上乘寺 様
121 法海寺 様
187 養善寺 様

◆徳島県

1 丈六寺 様

◆愛媛県

146 興雲寺 様

◆福岡県

25 南林寺 様

◆大分県

82 多福院 様

◆長崎県1

17 江東寺 様
42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆長崎県3

101 南明寺 様

◆佐賀県

118 養寿寺 様
144 世尊院 様
194 普恩寺 様

◆熊本県2

76 高雲寺 様
78 地藏院 様
79 向陽寺 様

◆長野県1

65 柳原寺 様
86 圓福寺 様

◆長野県2

420 金松寺 様
491 龍勝寺 様
595 檢校庵 様

◆富山県

26 徳城寺 様
54 大淵寺 様

◆新潟県1

346 繁慶寺 様
368 正通寺 様
393 曹源寺 様
394 常安寺 様
477 龍泉院 様
496 長樂寺 様

◆新潟県2

700 剛安寺 様

◆新潟県4

19 林照寺 様
814 地藏院 様

◆福島県

7 清水寺 様
14 円通寺 様
46 龍傳寺 様
79 西松寺 様
101 成林寺 様
111 普光寺 様
119 長泉寺 様
121 長泉寺 様
226 常隆寺 様
246 長徳寺 様
266 洞雲寺 様
461 正法寺 様
橋本浩一様

◆宮城県

1 昌傳院 様
10 瀧澤寺 様
13 福聚院 様
29 秀林寺 様
33 玄光庵 様
41 耕田寺 様
76 清涼寺 様
102 吉祥寺 様
167 湯船寺 様
202 皆傳寺 様
222 護勢寺 様
263 西林寺 様
275 観音寺 様
282 耕徳院 様
301 洞源院 様
371 頼光寺 様
420 玖光院 様
465 松岩寺 様

◆岩手県

5 久昌寺 様
8 源勝寺 様
13 長善寺 様
19 宮澤寺 様
20 大泉院 様
39 勝源院 様
81 円城寺 様
104 廣徳寺 様
133 大林寺 様
153 珠光寺 様
154 梅泉寺 様
196 建高寺 様
245 常樂寺 様
256 曹源寺 様
290 長泉寺 様

◆青森県

15 梅林寺 様
39 正法院 様
74 浮木寺 様
79 法光寺 様
100 澄月寺 様
101 聖福寺 様
111 玉泉寺 様
183 大乘寺 様

◆山形県1

81 金勝寺 様
101 長泉寺 様
238 西来院 様

◆山形県2

296 高德寺 様
371 照陽寺 様

◆山形県3

468 宗傳寺 様

◆秋田県

116 龍安寺 様
206 松雲寺 様
209 満友寺 様
250 太寧寺 様
260 松庵寺 様
274 盛澤寺 様
321 鏡得寺 様
323 恩徳寺 様
338 円通寺 様

◆北海道1

96 観音寺 様
351 曹覚寺 様

◆北海道2

117 中央院 様
299 永福寺 様
358 禅照寺 様

インターネット受付分

◆島根県2

5 地福寺 様
199 妙樂寺 様

◆秋田県

265 倫勝寺 様
354 観音寺 様



全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

全国曹洞宗青年会

第二十七期会長選考について（公募）

会長選考委員会において、会則並びに細則に従って左記の事項が決定されました。全国曹洞宗青年会第二十七期会長に立候補する者は、左記の要綱に従い、立候補届けを完了してください。

全国曹洞宗青年会 第二十七期会長選考委員会 委員長 井田昭彦

記

●全国曹洞宗青年会 第二十七期選考委員会 届出要綱

- 一、立候補届並びに履歴書の提出
- 二、立候補者の曹洞宗青年会における経歴書の提出
推薦状 ①管区曹青会代表者 ②曹青会代表者
- 四、立候補にあたっての執行方針の提出
立候補届出先
「全国曹洞宗青年会 第二十七期選考委員会 委員長 井田昭彦」宛
〒六九九―二八三三
島根県江津市波積町本郷一七八―三 岩瀧寺内
電話 〇八五五―五五〇六二二
- 六、立候補届出期限 令和八年一月三十一日（土）必着
- 七、立候補届出方法 必ず郵便書留でお願いいたします。
- 八、選考委員会構成員
選考委員長 井田昭彦（中国管区理事）
選考副委員長 大隆光真（四国管区理事）
選考委員 宮本昌孝（第二十六期会長） 五十嵐大介（北海道管区理事）
吉岡統親（東北管区理事） 村上崇則（関東管区理事）
久保尚之（北信越管区理事） 片岡璋純（東海管区理事）
福井易宗（近畿管区理事） 渡辺隆文（九州管区理事）

※会則につきましては全曹青公式HP『般若』に掲載しております。
<https://www.sousei.gr.jp/>

以上

新連載

「世界とともに歩む」



『SOUSEI』第211号より新連載「世界とともに歩む」の掲載を予定しております。国際委員会との協働のもと曹洞禅の国際展開や、海外の様々な宗派による仏教実践について紹介を行います。

様々な機縁、様々な環境で仏道に励まれている方々からお話を伺うことで、現状の枠組みにとらわれない自由な着想を得たり、当然に思っている日々の実践の意義を見直していただけるような連載を目指してまいります。

【お詫び】

『SOUSEI』第209号9ページにおきまして、掲載した写真に線が入る不備がございました。深くお詫び申し上げますとともに、再発防止に努めてまいります。

表紙の話

いよいよ第26期全曹青がスタートしました。今号の表紙では、スローガン「ともに歩む」を意識し、誰とも分け隔てなくともに在る青年僧侶の姿勢を表現しました。

撮影地／広島県尾道市 撮影／事務局長 菅悠生